出羽の国司は任ぜられしかを爲の事と見へたり又按察使の事續古事記二十九奥州闘の条下に奥羽國はゝ陸奥武家並劍の初斯波尾張守直持を鎮守府同將軍

古文並彰を按察使として奥国被下知ケ

陸ふとあり又羽源記曰人皇廿九代後光嚴院応安元年延文元年丙申年出羽陸奥の官未詳陸奥將軍源朝臣大

文源並彰出羽国に神をゝ〻と云ふ按日

に將軍の二字ハ元誓の文云まやをのちハ

宮上少將後出羽守之源朝臣古文並彰の子孫

ゝてあををゝとゝ大山の協を武義家はも

出羽守と云ゝ人報文見へ侍れ古人私は

称をゝ義光　宣下の国司とハ見へを

一三代実録三十六曰元慶三年六月二十六

日乙酉五位下守右中辨兼行出羽守藤原

保則飛驛奏言謹奉去三月九日　勅符旨

諸国軍士解陣放却并留中国甲冑及置當

国例兵陸奥鎮守將軍小野朝臣春風上野

国權大掾從七位南淵朝臣秋卿權史生大